

平成 25 年第 3 回定例会（9 月）一般質問

(2) 少子化時代における教育の取り組みについて

○ 議員 宮下裕美子 では 2 点目に移ります。少子化時代における教育の取り組みについて質問いたします。少子化は社会全体の問題で、どこの自治体でも子どもの数の減少は教育現場に影響しており、大きな課題になっていることは皆さんご承知のとおりだと思います。月形町における少子化の現状ですが、少子化は以前から少しずつ進行しており、出生数でみると約 20 年前は 1 学年 40 人程度だったのですが、その後急激に減り続け 10 年ぐらい前は 20 人を下回る年が続きました。しかし国の施策や様々な状況が変わったかもしれませんが、現在は 20 人前後とほぼ安定的に推移しています。少子化つまり子どもが減るということは、社会全体としては教育の環境変化につながっていますが、家庭においては子どもに目が行き届く。少ない子どもを大事に育てる機運が高まって、子どもへの期待が高まり、引いては教育への期待も非常に大きく高まっていると感じています。この中で少子化対応として月形町では学校統廃合をして対応してきました。特にこの 10 年間の変化が激しく、複数あった小学校は 1 校になり、中学校も 1 つになりましたけれども、2 クラスあったものが常時 1 クラスになっています。教育環境という器としての整備は行き着くところまで行き着き完遂したと考えています。この状況で次は様々な取り組みにより少子化を妨げられることを逆手にとって月形町の特色ある教育をすることが重要であると考えます。少子化の対応策を示すことは、これからの月形町の教育をどうするのかということ、将来に向けた方向性を示すことにつながっていきます。しかしながら教育現場学校教育・社会教育を含めますが、体制や取り組みは 10 年前、10 年間それほど変化がないと感じています。また、色々な場面で例えば金曜日に示された平成 24 年度教育委員会評価報告書などに対する説明あるいは毎年の執行方針などを聞いても、中長期的な方向性あるいは戦略的なものが、私ほうまくつかむことができいていません。そういう意味で今回この質問をさせていただくに当たって、月形町教育委員会が独自に少子化に対する課題を見つけて取り組んでいくことを、この質問を通しながら町民皆さんに示していただいた上で、皆さんの将来展望につなげて行けたらと考えています。そこで質問させてい

たきます。少子化時代における教育をどのようにしていくのか。教育委員会としての計画、あるいは見解をお伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 お答えさせていただきます。はじめに学校教育における特色について説明させていただきますが、何か目立ったアドバルーン的なことをやるのが特色ではないと思っています。まずは当たり前のことを当たり前に行えるということが一番大切であると思っています。例えば落ち着いた中で教育活動が進められる。非行問題が少ない。道徳教育の国の指定が受けられ研究が深められる普通の状態です。普通に教育が進むことが一番の特色であると教育の世界では捉えております。次に学校教育における魅力ある教育について説明させていただきますが、学校教育における魅力ある教育について、その行き着くところは、子どもたちの調和の取れた育成を目指し生きる力を育むことであって、そのためには学習内容の基礎・基本をはじめとする確かな学力・思いやりの心や他を尊重する心・規範意識などの豊かな人間性・自ら危険を回避する力などの健やかな身体を身に付けることでもあります。そのため教育基本法や学習指導学校教育法さらに学校教育施行規則に基づく学習指導要領等に基づいて、連綿と教育活動が営まれていくものと考えています。学問に王道なしのごとく地道に実践を積み重ねていくことであると思っています。ご質問の点についてですが、むしろ人数が増えてくると指導内容が行く届かなくなることから、教員を増やして細分化して教育活動を行うことがよくあります。一般的には人数が少なくなると授業や教科指導などはきめ細かく指導ができるという利点を持っております。いずれにしても人数に関係なく子どもたちに社会を生き抜く力を身に付けることが必要であり、現在も取り組んでいるチームティーチングや習熟度別指導、町独自の学力向上指導対策、何度も繰り返しますが、国の指定を受けた道徳教育の実績そして体力や健康に関する活動等脈々と推進することが不易な価値であって、今後ともこれらの取り組みを進め、内容を充実させることが大切であると考えています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、教育長から特徴あるというよりむしろ当たり前のことを当たり前にできることが重要であるということですが、少子化云々に拘わらず過去からうちの町の教育は水準が高いということは、教育委員長、先代の教育長から聞いています。うちの町は地域の教育力が高いからそれによ

って落ち着いて学習もできるし道徳的にも優れているその上で、より一層の学力の強化を目指すということを聞いてきましたが、もちろんそれはある程度、実践されてきていると理解しています。これらは先ほど言われた健やかな身体云々ということは、指導要領に従ってやって学校教育の基礎・基本で、広く全国どこ子どもたちにとっても最低限必要なレベルのもので、それは努力して当たり前のことですし、それができるようになることが一つの基準になるものです。そういう意味では月形町の子どもたちはクリアしていることは、今までも聞いているし、これまでも教育委員会からの報告で道徳教育の指定校を受けながらそれを粛々とやって子どもたちにそういう教育を進めていることは分かっているので、そのことはできているという前提で、次はどうするのかというお話をさせていただきたい。どんなことでもある程度できたら次の目標はどんなふうにあるのかということで、教育でも1つできれば次のステップを決めてそれに向かってみんなで努力するというかたちを取るのが一般的であると思いますが、教育長が言われたこのことは、重要で本当に大事なことですが、月形ではできていると常に言われていたのではないか。それなら次の段階を踏まえた上で何か示唆を示していただいた方が、先ほど言ったように教育に対して関心が高まっている保護者に対しても納得、希望を持つなど学校教育の協力者として参加していただけるのではないかと考えます。それに関連して例えば少子化という現実的に子どもが少なくなった実態を生かして、よりきめ細やかな対応をしようということで、IT器機を購入が少なく済むので先駆的に取り入れていく自治体。iPadなどの軽ポータブル器機を活用した授業をより早くに取り入れる自治体、あえて小中併設校を選び、小学校・中学校が同じ場所にあることにより教員を行き来させて中一ショックという学校が変わることにより影響を受けることを緩和させる。PTA活動をより充実させ、負担軽減させる、活性化させる策をしている自治体も現実にあります。具体的なことにはなりますが、中学校の部活動の競技の見直しなども現実的には必要ではないか。大人数があったときの部活構成のままある程度、今、ありますから、団体競技などは多くの競技の中で人数が少なく合同で大会に参加する。部活が休部状態にあるということも聞いています。それらも種目の見直しや別のかたちの活性化の方策もあるかも知れません。ある自治体のお話を聞いたときに、せっかく競技種目の見直しをするのであれば、より戦略的な取り組みとして、競技人口の少ないものを取り入れて早く全道大会に出場できるようなことに取り組んで、子どもた

ちに自信を付けさせたい、そういう競技を取り入れるということを知ったことでもあります。そのように少子化になったからこそできる方策は、様々あると思います。それは本当にチームティーチングや習熟度別指導がありますが、それはすでにやられていることで、体制としても出来上がっているものであるから、より一層それを強化する意味で様々な取り組みがあると思いますが、それについて教育長に答弁いただきたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 お答えさせていただきます。基準はクリアしていると言われましたが、正直言って手を抜けばすぐに下がると思っています。先生方が目一杯がんばって基準がクリアできてということで、ひょっとすると教育活動が停滞する、教科指導が十分でなかったら、下がるのは非常に早いです。上げるのは大変ですが、教育水準が下がっていくというのは、比較的早いと思っています。それとアイデアとして小中併置校ということではあると思いますが、おそらくどこかの学校で小中併置校であると思いますが、小学校・中学校の校舎を一緒にして、一部渡り廊下でつなぐ、全校舎をつなぐなどして一つの学校を共有して学校行事などを一緒に行う学校を併置校と言います。それに対して小学校・中学校単独の学校は単置校と言います。普通、併置校にする理由として地域の子どもたちが減ってくる、財政上の理由で小学校と中学校を併せてというかたちでつくるのが例であります。学校名も○○小中学校という言い方にしていきます。しかし、このことは統計上は都合良く解釈されることがあり、普通、併置校となると今、言ったように○○小中学校という言い方ですから、一つの学校として見なされる。場合によっては小学校1校、中学校1校と統計上見なされることがあります。ですから統計上、影響を与えるものですから、大きな影響としては費用と定数に影響があります。分かりやすく言うと単置校としては、小学校1校、中学校1校ですと校長が2名になりますが、これが小中学校ですと校長1名の配置になりますので、そのような影響があるので、普通はむしろ子どもの数が減ってもできるだけそういうようなかたちにしないという方向にするのが一般的であると思っています。IT機器の活用については、財政との関わりがありますので、そちらとの相談になるかと思っていますが、ただ現在もITとしては小中学校ともに電子黒板ということで、次長に後ほど補足させますが、電子黒板を中心に授業をやっていてということで、北海道教育委員会の出先の空知教育局の指導主事にも来ていただき、その活用などかなりITは活用さ

れているという評価をもらっています。それは全体のものですが、一人ひとりのiPadというところは負担問題もありますので、難しいと思っています。最後に言われた部活動の見直しということですが、確かに少人数にしたら大きな大会に出場できるということが近道なのかなと思いますが、部活動については、先生方本来の勤務ではないので、ここではお答えは差し控えさせていただきます。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今の答弁の中で、個別のことは例題として挙げたのですが、それに対してどうこうというより、色々な取り組みを最低限の今、基準になるというところのプラスアルファのところを取り組んでいる自治体がいくつかあるという事例として挙げさせていただきました。それに対して月形町教育委員会は、先ほど最初の答弁では基準を常に維持していくことが重要であるという説明しかなかったので、それプラスアルファのところをどのようにやるのかという質問をしていたのです。その部分の答弁がないので、その答弁をお願いします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 先ほど魅力ある教育ということでは言いましたが、子どもたちの知・徳・体の調和の取れた育成を目指して、生きる力を育てていくということが大原則ですので、この軸足をぶれないでいきたい。年度ごとの計画性については、教育行政執行方針の中で示していると考えております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、魅力ある教育に取り組んでいきたいということで、それは何かと聞いています。それから各年度では執行方針で報告するというので、年度ごとの執行方針は分かっているけれど中長期的な教育の見直しをお伺いしているのです。年度ごとについては、毎回3月定例会で執行方針を行ったときにその都度、聞くことができる。そういうことよりその先、例えば魅力ある教育とは何か。先ほどから教育長は基準を生きる力ということを維持していくことが重要で、それらは手を抜けばすぐに下がると言われる。それはそのとおりであると思いますし、粛々と進めるべき問題であると思います。魅力ある教育というのはそれプラスアルファです。そうではなく今あるいわゆる世間一般の基準となるようなことを粛々とできていけば、それで魅力ある教育と言うのかどうか。私は保護者の立場ですが「うちの町の教育はこんな感じだよ。」と人にお伝えするとき、特段アドバルーン的なもの

はいらないと思いますが、例えば先ほど言ったように道徳教育を中心にやるのであれば、そのようなことでもいいと思います。うちの町はみんな小学校から中学校まで道徳に関してはこんなことを取り組んでいると自信を持って伝えられる何かがあれば、そのようにすればいいと思います。食育についても取り組んでいると思いますが、例えば地産地消と関連させうちの食育はこんなにすばらしい。例えば置戸町が手作り給食の町で地産地消と町と一緒に食育に取り組んでいることは、子どもたちも知っているし町のみみんなも知っているのです、それをうちの町の教育の誇りとして皆さんにお伝えしている。だからそういうこともできるでしょう。例えばうちが歴史の町だと言うのなら、誰に聞いても月形町の歴史を知っていて、誇りを持ってそれをしているということも1つ観点になると思います。様々な切り口があると思います。最近特に英語教育に力を入れていますが、国の指針が決まる前から小学校でも英語教育を取り入れ、町でも英検準2級を取得すると海外短期留学を設定するなど、そのようなことが1つの売りであれば、それが特色ある教育としてももう少しアピールするかたちもできると思います。様々な切り口と捉え方で魅力ある教育は発信できると思いますが、そこが今までの執行方針あるいは評価報告書を読んでも伝わらない。指導要領どおりにいわゆる道教委や文科省の言うとおりにうちのまちは進めていて、それから先はあまり考えていないというようなイメージを何回か色々な答弁を聞いている中で、非常に感じてしまったのですが、そのあたりについて答弁をお願いします。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 前段でも言ったように何かアドバルーン的なことは、考えておりません。きちんと学習活動が行われていることや知（学力）・徳（道徳）・体（身体づくり）がバランス取れた教育が行われていることが、一番大切ですし、何かに特化してということは、考えていないし、人間としての総合的なバランスは知・徳・体ですから、そのようなかたちを推進して行きたいということで、国・道教委・文科省という言い方をしますが、私どもは公立学校で私立の学校ではないので、ここに基づいていくことが大原則です。計画も北海道教育長期総合計画、名称北海道教育推進計画に基づいて、オール北海道で進めていく教育の流れがありますから、私にとっては全人格的、バランスよく育っていくことが、一番、大切であると思っています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 先日の答弁から気になったのですが、教育長の答弁を聞いているうちの町の独自の教育委員会としての姿勢というものを感ぜられないのです。地方分権が進んでいる中で、教育行政においても基本的なところは指導要領をベースにやらなければいけないし、全国基準として文科省の方針あるいは道教委の方針があるのは、充分に分かっているけれど、あえて地域の特性や課題を解決するために取り組むのが、自治体の教育委員会の役割ではないでしょうか。そういう意味で教育長・教育委員長は実際の学校の教育をイベントごとではない授業や活動をどのぐらい見学されていて、把握されているのか。そういうことを踏まえた上で今、月形の学校教育現場に必要なことを政策として展開していくのが教育委員会ですので、そこを答弁していただきたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 教育長

○ 教育長 松山 徹 月形町の子どもたちにとって必要なことは、教育行政執行方針に記載しております。学校に足を運んでいるのかということについては、足を運んでいます。

○ 議長 笹木 英二 いつまでやってもけりが付かない感じなので、この問題については、終わりたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 はい。